

# 最近における小売店在庫の動向

昭和28・10・1

## 目次

### 一、はしがき

#### ——本調査の意図——

### 二、在庫増加の実情

#### (一) 販売、在庫高推移の傾向

#### (二) 主要品種別の特徴

#### (三) 物価変動と販売、在庫高との関係

### 三、在庫増加と金融との関係

### 四、むすび

#### ——在庫増加の経済的意義と限界——

### 一、はしがき

#### ——本調査の意図——

末端小売部門における店頭在庫が顕著な増加を示していることは、最近屢々指摘されているところであつて、このことは小売店舗の増設、拡張、或は陳列商品の充実化等街頭に見聞する諸事実からも充分に看取することができる。それは、物資の供給が豊かになつた結果であり、わが国の経済回復の一つの現われに外ならないと見られるが、視界を限つて昨年半は頃より最近に至る間の推移を見れば、そこには単に感覚的な把握にのみ放置するを許さないような問題を含んでいるように思われる。

その第一は消費財生産の著しい伸長に対し、消費水準の上昇が追隨し得ないこととからくる需給上の問題である。すなわち経済審議庁調査による生産指数及び消費水準指数を見ると(第一表)、生活資料の生産は戦前水準(昭和九—十一年)を

### 最近における小売店在庫の動向

三〇%以上も上廻り、殊に本年四月以降特に顕著な上伸を辿っているが、都市並びに農村の消費水準は、戦前水準を上廻つたとはいへ、生産の増加率には到底及ばない。この両者の伸びのずれを埋めるものとしては、輸出と在庫の増加とが考えられるが、輸出水準は周知のごとき低迷状態であり、結局在庫の増加がそのギャップを埋めたものと考えざるを得ない。特に末端流通部門の在庫増加は、その枯渇が殊に著しかつただけに、これまでの物資需給上見逃し得ない役割を果たしてきたと認められる。すなわち中間段階のタンクが枯れていたために消費を超える生産が直ちにオーバーフローとならないですんだとみられるのである。しかしこれも、或る程度充たされた後は、もはや需給上のクッションとはなり得ないであろうと考えられるが、果してその実情はどうであろうかという問題が一つ。

第二に銀行貸出の動向を見ると、昨年半は以降製造業向融資に較べて流通部門向融資の増加が著しい。これは直接、間接に小売在庫増加の裏付けとなつたと考えられるが、今年に入つてからの増勢は、製造業向融資よりも高いテンポを維持しているとはいへ、幾分緩慢化し、銀行の選別態度の強化と共に最近では伸び悩みの様相をすら呈している。しかも流通部門の中では、卸売業者向よりも小売業者向に、このような傾向が顕著である。いま達観的に在庫の増加が直接、間接に銀行融資の増加によつて支えられたと見るならば、その面よりして在庫の増加は限界点に近づきつつあると言えそうである。若し然りとすれば消費を超える生産は、そのまま供給過剰として表面化せざるを得ないであろう。これが第二の問題点である。

かくて小売部門における在庫の実情を把握することは極めて重要である。本調査は右のごとき観点からする小売在庫の実態への接近の一つの試みに外ならない。

調査の対象としては、東京都内四八店(内百貨店二、但しその一つは協会加盟一三ヶ店の合計)、その他三五七店(内百貨店五四)計四〇五ヶ店をとり、これにつき、業種別、地区別に販売高、在庫高の実情の分析を試みた。資料の蒐集は東京都内では各店舗で記入の上、銀行取引のあるものは銀行で、その他組合、問屋

等で照合し得るものは夫々で検討し、概数ながら事実の反映に努めた。その他の店舗は本行各支店の調査に依るものである。なお一般小売店の規模別区分は、月商五〇〇万円以上、一〇〇万円以上五〇〇万円未満、一〇〇万円未満を夫々大、中、小として区分した。

(第一表) 消費財生産水準並びに消費水準の推移

	生産水準		都市消費水準		農村消費水準	
	指数	前年同期比	指数	前年同期比	指数	前年同期比
昭二六年一—三月	八四・四	一四五・五	六四・五	九九・四	一〇三・五	一八・五
四—六	七〇・七	一四三・四	六五・八	九三・三	九四・六	一七・七
七—九	六八・八	一三〇・四	六四・九	九五・九	一〇一・〇	一五・八
十—十二	六八・〇	一二三・三	七九・七	一〇六・一	一二三・八	一〇・九
昭二七年一—三月	一〇〇・六	一二九・二	六九・一	一〇七・一	一二六・七	一一・八
四—六	一四〇・九	一二五・七	七四・九	一二三・八	一二三・一	一一・六
七—九	一一五・五	一二三・八	七三・二	一二九・〇	一二三・九	一一・八
十—十二	一一七・八	一二三・七	九三・五	一二四・八	一二四・九	一一・五
昭二八年一—三月	一一六・三	一二五・五	八二・二	一二八・八	一二〇・六	一一・九
四—六	一一三・五	一二五・四	八五・九	一二四・七	一二〇・〇	一一・二
七	一一三・九	一二三・三	一〇〇・六	一二五・八	一二〇・〇	一一・二

## 二、在庫増加の実情

### (一) 販売、在庫高推移の傾向

今回の調査による百貨店並びに一般小売店の販売、在庫状況の推移（昨年六月より本年七月まで）の詳細は附表(一)の通りであるが、その動きは地区により、業種により、また規模により様々であり、この中から全体としての特徴的傾向を抽出することは非常に困難のように思われる。しかし販売高の推移、在庫の増減、在庫保有水準並びに在庫増加のテンポ等によつて大体の傾向を窺えば、次の通りである。

### (1) 販売高の増減（昨年六月と本年六月との比較）

	一般小売店	百貨店
売上増加二〇％以内の店舗数	一一〇（三一・五％）	二二三（四一・一％）
二〇—五〇％	七三（二〇・九％）	二二（三九・三％）
五〇％以上	五九（一六・九％）	四（七・一％）
売上高が昨年より下廻つたもの	一〇七（三〇・七％）	七（一二・五％）
計	三四九（一〇〇・〇％）	五六（一〇〇・〇％）
平均売上増加率	一三・七％	一九・九％

売上増加率は一般小売店より百貨店において高いが、百貨店のうちでも大都市より地方都市の方が高い。

一般小売店の売上増加率は、洋品雑貨二四・四％、金物（建築用具、機械工具、家庭金物を含む）二四・一％、金属機器（電気器具、時計、カメラ、自動車部品）二一・六％、家庭用雑貨六一・一％、繊維製品（呉服、服地、その他衣料品）七・七％、その他六・六％と品種により区々であり、また繊維及び洋品雑貨の増加率は地方都市よりも大都市の方が、金物関係では大都市よりも地方都市の方が高いというふうに、歩調は同一でないが、総平均では一三・七％と、百貨店の一九・九％には及ばないながらもかなりの増加を見せている。諸品種中繊維製品の売上増加が比較的低調であるのは、比較の対象とした六月が、昨年は夏物衣料の出足が比較的好調を示した時期であつたのに対して、本年は氣候不順により売行が不振であつたことに因るものと観測され、商況の基調そのものは繊維を含めてかなり堅調であつたと判断される。

### (2) 在庫高の増減（昨年六月と本年六月との比較）

	一般小売店	百貨店
在庫増加二〇％以内の店舗数	一一〇（三一・五％）	一七（三〇・四％）
二〇—五〇％	八四（二四・一％）	二二（三九・三％）

五〇%以上	六四(一八・三%)	一二(二二・四%)
在庫高が昨年より下廻つたもの	九一(二六・一%)	五(八・九%)

計	三四九(一〇〇・〇%)	五六(一〇〇・〇%)
平均在庫増加率	二一・三%	四〇・九%

在庫増加の点においても、一般小売店は総じて百貨店程ではなく、また店舗により増減率も多岐であるが、平均増加率は二一・三%とかなり高率を示している。これを品種別に見ると、金属機器七八・九%、洋品雑貨二八・六%、繊維製品二〇・三%、金物関係一五・五%、その他一〇・九%とやはり区々であるが、地区的に見ると、繊維、洋品雑貨、金物等何れも地方都市より五大都市の方が高率を示している。この点は百貨店在庫の増加率についても同様である。

規模別に見れば、五大都市の金物関係では中小規模店よりも大規模店の方が増加率が低いなどの例外もあるが、大勢としては先ず大規模店が中小規模店よりも増加率が高く、然も繊維にあつてはその幅がかなり大幅であることが窺われる。

売上と在庫の増加率を比較してみると、繊維、金属機器及び木材、板硝子等において、売上増加の割合に比べ、特に著しい在庫増加が認められる。金物、その他の商品の在庫は、殆ど売上増加に見合う程度の増加に止まつているが、全体としてみれば、在庫の増加は売上の増加を上廻っており、当然在庫率が高まつている。

しかし店舗別に見ると、在庫増加の少ない店舗或は在庫保有の少ない店舗でも、著しい売上増加を見ているものもあり、百貨店間における同じく、一般小売店間においても企業の優劣の差が明瞭に看取される。

### (3) 在庫の保有水準(七月末在庫の一―七月平均月商高に対する割合)

在庫率一〇〇%以内の店舗数	一般小売店	百貨店
	六三(一八・一%)	一三(二三・二%)

最近における小売店在庫の動向

一〇〇―二〇〇%	一一五(三二・九%)	二八(五〇・〇%)
二〇〇―三〇〇%	九二(二六・四%)	一一(二一・四%)
三〇〇%以上	七九(二二・六%)	三(五・四%)
計	三四九(一〇〇・〇%)	五六(一〇〇・〇%)
平均在庫率	一七四・二%	九一・九%

月商高に対する在庫の割合が、百貨店、一般小売店とも意外に高いことは右に見る通りである。品種別に見ると、金属機器二四四・七、繊維製品一八六・五、洋品雑貨一八二・二、金物一七五・七、家庭用雑貨一七〇・五、その他一八・九というように著しい凹凸があるが、いずれも百貨店の平均九一・九を遙かに上廻っており、また地区別及び規模別に見れば、五大都市よりも地方都市の方が、また大規模店よりも小規模店が格段と高率を示している点が注目される。

一般的に資金回転度の上から言えば、在庫率の低いことが望ましいが、一面売上量確保の上からすれば、陳列商品の豊富なが望ましい。その間問屋との連絡の便否、販売競争の激しさの度合等の差等もあり、在庫の保有適正量は一概にはいえないが、東京都内の理想在庫量が月商の一〇〇%程度と業者自身の口から言われているにも拘わらず、現に右の如き高水準の在庫が存することは経営上の観点からしてもかなり問題のあるところと思われる。

### (4) 在庫増加テンポの変化

以上の観察で注目されることは、一般小売店、百貨店とも売上高は昨年より増加しているが、在庫増加、殊に繊維、金属機器等一部商品のそれは売上増加以上に顕著であつたこと、及び月商に対する在庫保有は極めて高水準に達しており、必ずしも売上増加との間に比例的な関連を持ち得なくなつていたことであつた。それではこの期間における在庫増加のテンポは如何であつたか。これを品種別に見れば第二表の通りであり、またこれを売上高推移との対比において図示すれば第一図の如くである。

(第二表) 昨年六月より本年七月に至る間の在庫推移

(金額単位 百万円)

	調査店舗数	昨年六月(A)	十二月(B)	本年六月(C)	七	月	B(A)(%)	C(B)(%)	C(A)(%)
百貨店	五六	六、一〇九	七、二一四	八、六〇八	七、七〇六		一一八・〇	一一九・三	一四〇・九
(五大都市)	一三	四、一三四	四、六六四	五、九一一	五、一四七		一一二・八	一二六・七	一四二・九
(地方都市)	四三	一、九七五	二、五五〇	二、六九七	二、五五九		一二九・一	一〇五・七	一三六・五
一般小売店	三四九	一、四〇一	一、六四〇	一、七〇〇	一、六一八		一一七・〇	一〇三・六	一一一・三
内織雑製品	一三三	七二〇	八三〇	八六三	八〇六		一一五・二	一〇三・九	一一〇・三
(五大都市)	三九	一七三	二〇三	二二七	二一四		一一七・三	一一一・八	一一三・四
(地方都市)	九四	五四七	六二七	六三六	五九二		一一四・六	一〇一・四	一一六・三
洋品雑貨	三二	一三〇	一七八	一六八	一五三		一三六・九	九四・三	一二八・六
(五大都市)	一二	五九	七四	七七	七二		一二五・四	一〇四・〇	一二九・二
(地方都市)	二〇	七一	一〇四	九一	八一		一四六・四	八七・五	一二八・一
金物	六三	二五〇	二七四	二八九	二七六		一〇九・六	一〇五・四	一一五・五
(五大都市)	一五	二三	二四	二七	二七		一〇四・三	一一二・五	一一七・六
(地方都市)	四八	二二七	二五〇	二六二	二四九		一一〇・一	一〇四・八	一一五・三
金属機器	一七	六二	八一	一一〇	一一一		一一三・六	一三五・八	一七八・九
家庭用雑貨	二二	四七	六〇	五七	五五		一二七・六	九五・〇	一一四・八
その他	八三	一九二	二一七	二二三	二〇七		一一三・〇	九八・一	一一〇・九

これによつてみれば、在庫増加の推移も品種によつて必ずしも一律でなく、売上増加の比較的順調な五大都市の百貨店のように、今年に入つて昨年六―十二月間以上の増加を示したものとみられるが、繊維製品その他一般的には、十二月までは相当な増高を来したが、本年に入つてからは極めて平凡な微増推移に変つてゐる。これには勿論季節的関係もあるであろうが、増勢の基調そのものが鈍化していることも否み難いと認められる。しかも一般小売店の場合、取引閑散期たる一、二月或は夏場実需期を控えた五、六月など季節の変わり目における販売高、在庫高の動きを仔細に検討してみれば、在庫の内容が必ずしも充分回転せずデッドストック化した商品もかなりできてゐるのではないか、またその反面新規商品の仕入が資金的な制約から充分には行われ難くなつてゐるのではないかなどの観測も生じてくる。尤も季節性の最も烈しい繊維は六月から

七月にかけ相当の在庫減を見せたのであるが、夏物販売期において小売業者は購買力の相対的不振を啣つ一方、消費者側では適品薄を唱えていた事実は上述の推測を裏付けるものであり、六、七月の在庫減少は寧ろ底強い消費購買力と、思い切つた値下げによつて、回転度の鈍い在庫品の一部まで消化された結果と認むべきであろう。

(二) 主要品種別の特性

各品種毎の在庫事情の特性は、百貨店との対比、或は各品種間の対比において既に見て来た如くであり、それ以上に立ち入ることは資料の関係で困難であるが、一応業態及び品種の特性を考慮しながら、既述せるところをとり纏めてみれば次の通りである。

(1) 百貨店

仕入条件及び販売条件の上で一般小売店に対し絶対的な強味を持つていること及び概して広汎に亘る支店網を持ち本支店間の商品移動により効率的な商品処理を行い得ること等の点において、百貨店は著しい特性をもっているが、在庫状況の上にもそれが反映している。すなわち、

(イ) 本年六月末の在庫は、昨年同期に比べ、五大都市、地方都市平均で四〇・九%と、売上増加率一九・九%を遙かに上廻る増加を示しているにも拘わらず、七月末における在庫率(一―七月間平均月商高に対する在庫の割合)は一般小売店平均一七四・二%に対し九一・九%と比較にならぬ程低率である。

(ロ) 一般小売店の在庫増加が今年に入ってから殆ど頭打ちとなつてゐるのに対して、百貨店のそれは最近ますます増加を続けており、これは今後における百貨店の販売競争上の地歩を益々有利にするものである。

等の点が特徴的に窺われる。尤も一口に百貨店といつても、その規模、或は販売上の条件差などによりかなりの差異のあることは否定できず、それは第二図に見る通りであるが、概して言えば、在庫増加の幅は五大都市百貨店の方が大きい、在庫率は逆に地方都市の方が著しく高いという傾向が認められる。

## (2) 繊維製品

商品売上高が期待程伸びていないにも拘わらず、在庫増加率が高く(昨年六月―本年六月間二〇・三%、五大都市では三一・四%)、且つ在庫水準が最も高い品種(七月末で平均月商の一八六・五%、五大都市一三九・八%、地方都市二二・二%)の一つであるが、同時にまた地区別、規模別の相違により在庫事情に大きな開きがあることも見逃せない。すなわち、

(イ) 地区別に見ると、保有水準は地方都市の方がかなり高く、在庫増加率、売上増加率は五大都市が遙かに大きい。

(ロ) 規模別には大規模店の保有水準が比較的低いのに對して、小規模店の保有率が圧倒的に高い。

これらは一般的に仕入の不便な地方都市において、また競争上の立場の弱い小規模店において販売高確保のために勢い手持を厚くする傾向があることを示しているが、そのうちで、昨年十二月までの在庫増加は都鄙、規模の別なく大

最近における小売店在庫の動向

幅であつたのに引きかえ、更年後の在庫増加は五大都市、地方都市とも大規模店に限られてゐること及び小規模店の在庫保有水準は大規模店の場合と異り五大都市が地方都市より相当高位にあることが注目される。このような傾向は問屋の売込が販売成果の挙がるどころ並びに業況監視の届き易いところに行われ、然らざる分野には比較的消極的であつたこと乃至銀行融資が大規模有力店以外には追隨し得ていないこと等の実情を反映するものと考えられる。

## (3) 金物店

季節的な取引閑散期の関係で一、二月の売上は減退したが、それを除けば販売高の推移に比較的变化が少く、在庫も亦凡調な微増推移を辿つてゐるが、これは商品自体の性質から来る特色と思われる。地区別、規模別に検討しても必ずしも一貫した傾向は見受けられず、強いて言えば売上増加率は相対的に地方都市の方が五大都市よりも大きいこと、在庫保有水準も同様地方都市の方が高いが、五大都市との懸隔は繊維製品における程ではなく、在庫増加の割合も売上増加を考慮すると左程大きくないということが指摘されよう。

## (4) 金属機器(主として電気器具、時計、カメラ等高級文化財)

販売推移の好調もさることながら在庫増加のテンポが極めて急速であり、月商に対する在庫の保有水準が尻上りに高まりつつある(七月末二四四・七%)のが注目される。蓋し最近における消費需要の高度化を映する現象であり、反面この種商品の生産が極めて好調な推移を辿つてゐる結果でもあるが、販売面の水準ひいては資金回転上の制約からしても、このような趨勢が今後も同様な調子で続き得るかどうかは大いに疑問視される。

なお既述の通り年初来の在庫増加の足取りは繊維を首め洋品雑貨、金物、家庭用雑貨その他一般に伸縮み或は減少の傾向にあるのに對し、これのみが年初以降も異常な速度で増勢を続けていることは極めて特異視される。

## (5) その他

昨年との対比においては、木材、燃料、板硝子、食料品等の在庫が増勢顕著であり、家具、医薬品、化粧品、建築資材等は特に増加と言うほどのこともなく、却つて売上増加率に及ばない。皮革、ゴム製品等は売上が伸びているに

も拘わらず、在庫は減少している。昨年六月に比べ増勢顕著な木材以下の数品目も、板硝子以外は、本年に入つてからは殆ど増加していない。

月商に対する在庫率も各品種概ね一〇〇%前後で、過剰在庫は見当らず、わずかに医薬品と化粧品だけがやや厚くなつてゐる。

(三) 物価変動と販売、在庫高との関係

以上販売、在庫状況の分析は便宜上すべてその時の価格による金額によつて行つてきたが、売上或は在庫を物量的に捉えるには物価変動を考慮して修正してみなければならぬ。しかし現実の問題としては、昨年六月より本年七月に至る期間の物価変動は概して少く、農産食料品、建築材料の微騰と、その他商品の微落とを合わせて小売物価は四・六%、卸売物価(消費財平均)は二・四%の騰貴に止まつたので、大勢の推移にはさしたる変りはないと見てよいであらう。

因みに販売高を原則として小売物価指数(金物、金属機器及び加工食料品は該当指数なきため卸売物価指数)により、在庫高を卸売物価指数によつて修正して販売、在庫高推移を見れば、附表(二)の如くであり、修正前との比較を示せば次の通りである。

(第三表) 物価変動により修正した販売、在庫増加率(昨年六月対本年六月)

	販売増加率		在庫増加率	
	A	B	A'	B'
百貨店	一九・九%	一七・五%	四〇・九%	三九・二%
小売店計	一三・七	一一・五	二一・三	一九・九
内織維製品	七・七	一一・〇	二〇・三	二二・七
洋品雑貨	二四・七	二七・四	二八・六	三二・〇
金物	二四・一	二八・七	一五・五	一九・七
金属機器	二一・六	二六・一	七八・九	八五・六
家庭用雑貨	六一・一	六四・五	一四・八	二二・〇
その他	六・三	九・二	一〇・九	一四・六

(註) A、A'—物価変動による修正前

B、B'—修正後

三、在庫増加と金融との関係

在庫増加の実態は凡そ以上の如くであるが、それではかかる在庫増加は何によつて可能であつたか、これが次の問題となる。

在庫増加の実体面の原因としては、消費財の生産が消費購買力の伸長以上に順調であつたため、商品に対する売り市場が一転して買手市場に転化して来たこと、並びにそれに伴つて消費者の選択買傾向が濃化し、小売店側としても勢い手持商品を厚くしなければ販売競争戦に伍し得なくなつたこと等が考えられるが、反面それを可能ならしめたところの資金面の要因をも逸することはできないと考えられる。すなわち今回の調査によつて見ると、一般小売店の仕入は、品種の別なく概ね八割は、一ヶ月程度の買掛と六〇—七〇日期日の手形決済によつており、しかも両者の割合は略々半々となつてゐる。したがつて仕入商品の回転期間をその在庫率よりして大凡一・七ヶ月とみれば、小売店が自ら調達した資金によつて回転している割合は約二割に過ぎず、全体の八割までは問屋或はそれを通じて金融機関の融資に依存していることとなる。しかも右にいう自己調達資金のうちには当然小売店が直接金融機関から借入れる資金をも含んでおり、それ等直接、間接の金融面の支えなくしては、上述のごとき在庫の増加は到底実現し得なかつた筈だからである。

そこで先ず小売店が直接市中銀行、相互銀行その他の金融機関に依存している借入金額をみると、第四表のごとく、本年三月から六月までの僅か三月の間に二一〇億円も増加し、各金融機関合計一、七四四億円に及んでいる。

(第四表) 小売店に対する各種金融機関の貸出額(金額単位 百万円)

	三月末残高		六月末残高		六月末残高の合計に對する増加率%	六月末貸出先数
	三月末残高	六月末残高	三月末残高	六月末残高		
全国銀行銀行勘定	四五、七三	五〇、九五	二九・三	二一・四	一六・二	五三
信託勘定	一、六五〇	二、〇二	一一・一	三・四	三・九	三九
相互銀行	五、九九五	五、三三	三・三	八・一	五四・六	四九
信用金庫	三、四六二	二、五八	一五・八	一七・三	一八三・九	二〇
国民金融公庫	三、〇八八	三、七六〇	二・七	三・六	一	—
合 計	一五、八四五	一七、四六七	一〇〇・〇	一三・六	八六・〇	四七〇

(註) 相互銀行の貸出中には、貸付、割引手形の外給付金を含む(給付口損金は控除していない)。

右の貸出が小売店の自己調達資金のうちどれだけのウエイトを持つものであるかは推測困難であるけれども、いま仮に相互銀行以外の貸出先の半数が重複して融資を受けているものとしてみれば、上記金融機関の融資先は六月末現在で約六九〇千となり、これは通産省調による全国小売業者総数一、〇八六千（小売専業者九八〇千、製造小売業者一〇六千を含む）に対し六三・五％に当り、一業者当りの平均借入額は約二五三万円に上る。尤もその反面には両建的な預金、給付口掛金のごとく、本来なら貸出から差引かるべきものもあるであろうが、ともかく金融機関よりの借入がかなりの比重を持つていことは否めないと考えられる。加之後にも述べる如く、昨年半ば以来小売店に対する銀行貸出は、他業種向の貸出以上に顕著な増勢を辿っている。銀行以外の金融機関の貸出は本年三月以前の貸出残高が未詳のため、その推移を的確に掴み得ないが、それは概して銀行貸出以上の増勢を続けたものと見られており、彼此考え合わせれば小売業者の自己資金の比重は極めて限られたものとなりつつあると見ざるを得ないであろう。

次に問屋の段階ではどうであつたか。既に見た通り小売店は商品仕入の入割までを問屋に依存しているのであるから、問屋がそれを如何にして賄つたかが問題となるが、問屋はメーカーへの鍛寄せ或は金融機関の貸出に仰ぐ外なく、その金融力は問屋自体の信用力の大小に制約されざるを得ない。現に昨年半ば以降の小売在庫の推移を見ても、繊維製品、金属機器或は洋品雑貨の増加が目立ち、金物関係がこれに次いだもののその他一般商品にはさしたる増加が見られなかつた

(第五表) 全国銀行業種別貸出残高の推移

	昭二六、六	昭二七、六	昭二七、九	昭二七、一二	昭二八、三	昭二八、六
製造業	六七六、四八二 (七一・一)	九五一、二三〇 (二〇〇・〇)	一、〇〇一、五二九 (二〇五・二)	一、〇五九、八三四 (二一一・四)	一、一一三、六八〇 (二一七・〇)	一、一六六、九一九 (二二二・六)
卸、小売業	二九五、四七七 (五九・五)	四九六、四八九 (二〇〇・〇)	五六二、七五二 (一一三・三)	六四〇、九一二 (二二九・〇)	六八二、四〇八 (二二七・四)	七一七、一八七 (二四四・四)
内卸売業	二七二、七五〇 (五八・七)	四六四、四一三 (二〇〇・〇)	五二六、三八三 (一一二・三)	五九七、二五九 (二二八・七)	六三六、六八五 (二二七・一)	六六六、二六一 (二四三・五)
百貨店	四、九七六 (六七・八)	七、三三五 (二〇〇・〇)	八、七二三 (二一八・九)	八、九八八 (二二二・五)	一〇、九八三 (二四九・七)	一三、〇二一 (二七七・五)

が、これは一面繊維関係部門に最も粒の揃つた問屋が存在しており、洋品雑貨、金物等は繊維程に粒揃いでないとしても他業種よりは比較的有力な問屋が存在すること、また金属機器については、問屋機構の整備はないが生産メーカーに融資力のある大規模業者が存在することなどを反映するものと思われる。そこで問屋に対する銀行貸出の動向についてみれば、凡そ次のことが指摘される。

(イ) 全国銀行の貸出は製造業者向、卸売業者向とも膨脹を続けているが、増加の速度は卸売業向の方が遙かに急である(第五表)。すなわち昭和二十六年六月から二十七年六月に至る一年間と、それ以後の一年間における融資の増加率をみると、製造業が夫々四〇・六％、二二・七％であるに對し、卸売業は夫々七〇・三％、四三・四％と前者に比し遙かに高率であり、また同じ期間の貸出先数の増加率は、製造業が夫々六・八％、一〇・四％に對し、卸売業夫々一〇・八％、一九・二％とやはり後者が遙かに高率を示している。尤もこの間昨年二月以降、従来銀行融資に計上されていなかった外国為替決済資金貸が新たに融資残高に計上されることとなり、同時に特定商品に対する別口外貸貸のみが融資残高から別計理されることとなつた点は製造業者向並びに卸売業者向融資の増加率に影響しており、厳密な比較を困難にするものであるが、ともあれ流通部門に対する貸出増加の大勢は右によつて知り得ると思われる。

(単位 百万円)



貸出総額	その他	一般小売店			
		一	二	三	四
一、二二二、七二二	一、七八二、二八七	一、九三八、七八〇	二、一八八、〇二二	二、二六二、三七七	二、三七〇、二六〇
(六八・〇)	(二〇・〇)	(二〇・八・七)	(二一・九・三)	(二二・六・八)	(二二・二・九)
二、四〇、七五三	二、三〇、五八八	二、四一、四九九	二、二七、二七六	二、四六、二八九	二、四六、一五四
(七一・九)	(二〇・〇)	(二一・九・九)	(二二・七・七)	(二二・九・〇)	(二二・五・三)
一、七、七四九	一、二、七一一	一、二、六四五	一、二、四〇、二二	一、二、四〇、二二	一、二、四〇、二二
(七一・八)	(二〇・〇)	(二一・八・八)	(二二・四・二)	(二二・四・五)	(二二・三・三)

(註) 括弧内は昨年六月末残高を一〇〇とする指数。

(四) 更にこの期間における卸売業者向貸出の推移を業種別に見ると(第六表)、電気機械器具、金物及び機械器具、繊維関係の卸売業に対する融資が、金額のみならず貸出件数においても、比較的著しい増加を示している。

すなわち右によつて銀行融資が問屋金融の裏付となり、在庫増加を支える要素となつたこと、裏から言えば在庫増加の趨勢に金融が順調に追隨したことを知り得るのである。

それではこのような金融に支えられての在庫の増勢は、今後同様の調子を以て持続し得るものであろうか。この点については在庫の増勢が資金面から限界に近づきつつあることを窺わしめる幾つかの兆候をあげることができる。すなわち、

(1) 卸小売業者向貸出の推移を昨年六月以降について見ると、昨年六―十二月間の増加のテンポは特に著しいものがあり、従来以上に急速な上昇を示しているのに対して、更年後の増加は緩慢となり、昨年六月前よりも上昇速度が落ちて来ている。このことは実体面における在庫増加が昨年末までの急テンポから更年後伸縮みに陥つた事実と表裏をなすものであり、今後の在庫増加については金融面が最早積極的ではあり得なくなつてゐることを示すものである。小売業者に対する貸出のみをとり出して見ても同様であり、就中百貨店よりも一般小売店についてこの傾向が著しい。またこの間において看過できないのは、小売業並びに卸売業に対する期限経過貸が増加していることである。それは第六表に見る如く電気機械器具卸売業を僅かの例外として一般小売業、金物機械器具、織物関係卸売業等昨年半ば以降貸出金額、件数とも顕著な増加を示した業種に一般に見られる傾向であり、従来順調に減少して来たものが三月末を底と

して六月末にはかなりの増加を見せている。期限経過の計上が手形期限の経過後三ヶ月で初めてなされる点からすれば、六月末の増加は二、三月以降の業者の資金難を反映するものであり、同時にその頃から銀行の流通部門に対する融資選別態度が強化して来たことを物語るものと言ひ得よう。

(2) 第二は、小売店の仕入代金決済手形の期間が商品の適正回転期間を遙かに上廻つて長期化して来ていることである。東京都内繊維関係小売店の振出手形サイクルは二、三月頃までは四十五日前後であつたのが、最近では平均七十日程度、長いものは九十日前後にも及んでいる模様であるが、これは問屋金融の内容が回転商品に対する金融の意味から離れて漸次滞貨金融化していることを示すものに外ならないであろう。それとともに注目されることは、買掛商品に対する代金決済ができず、劣弱小売業者の間に取引問屋をふやして買掛先を増して行く例が現われていることである。もとよりその裏面には問屋の取引先厳選態度から劣弱小売業者が次第に有力問屋から切離されて行く現象が潜んでおり、当面は小売同業者組合の結成等によつて取引維持のための諸々の対処策が講ぜられるであろうが、一般的に見て拡大的な取引は困難のように見受けられる。

なお仕入過大の結果、遂に行詰りを余儀なくされた小売業者に対しては、取引問屋間の申合せで売掛代金を一応棚上して新規の商品を夫々の枠内で扱わせる等、一種の問屋協調融資とも言ふべき現象も見られるが、それも究極のところ問屋の旧債権回収のための苦肉策にすぎないと見られ、かかる劣弱業者に対する積極的な売込策とは解されない。

(3) 在庫商品が追々過剰となり、買掛代金の決済或は手形の期日決済が不円滑化するとともに、決済期間が漸次引延ばされる形勢にあることは、手許資金の回



転鈍化の現われに外ならないが、さりとて金融機関からの借入も現実には容易でなく、資金繰りに窮した小売業者の間には高利の仲間金融に依存する例が多

くなっている。事実、東京都内において近來業況不振の故に破綻を来す業者は殆ど例外なく高利の仲間融資によるものと言われている。

(第六表) 卸小売業部門別貸出件数金額推移(全国銀行)

(金額単位 百万円)

		卸売業及び小売業				卸売業計				内織維関係卸売業			
		貸付総額	期限経過貸	貸付総額	期限経過貸	貸付総額	期限経過貸	貸付総額	期限経過貸	貸付総額	期限経過貸	貸付総額	期限経過貸
件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
二十六 六月	三〇、五四三	二九、五四七	一〇、〇〇四	六、六七七	一〇、一五二	二七、七五〇	四、九四三	五、九三三	二〇、八三三	一〇、四三〇	六、九七	一、四七二	
十二月	三六、一七三	三九、三三三	八、五二四	六、六七七	二〇、一〇四	三六、二八三	四、三八三	五、九八八	二二、四六一	一三、一一〇	六、八	一、五六三	
二十七 六月	二六、一六三	四九、六八九	八、〇六一	八、六五二	二五、八八三	四六、四四三	四、一〇九	八、〇三三	二四、一七一	一五、五八七	六、六	一、六六六	
九月	二七、四三七	五二、七五三	七、〇七	七、五八	一三、三三八	五、五八三	三、七二五	七、〇〇〇	二六、一六	一八、一九九	五、五	一、九三	
十二月	三二、四八九	六四、〇九三	七、一五四	八、〇九七	一四、七〇七	五、九七	三、六九九	七、四八二	二七、四〇八	二二、〇五八	五、六〇	一、八六三	
二十八 三月	三〇、四二	六八、二四八	六、〇六二	七、三三八	一四、一三六	六、六八五	三、二〇二	六、七七	二七、六九〇	二二、九七七	五、九	一、六六七	
六月	三一、六七四	七、一八七	六、九二四	八、七四	一五、〇六三	六、六二一	三、五三三	八、二五	二九、四六	二二、五五七	五、九	一、五五〇	
化学薬品医薬品及び化粧品卸売業													
二十六 六月	七、九四三	一四、九七	二、四六	一、三三	五、四九	三、六七三	二、四六	一、〇七	二、五七七	二、一一七	一、五四	五、五	
十二月	八、〇四	一七、三九六	二、八	一、六一	五、七五〇	四、二七八	一、七	一、九	二、八〇三	二、八四〇	一、三	四、六	
二十七 六月	八、四四二	二二、〇四五	二、二	一、五三	五、九六〇	五、〇三二	一、七三	一、〇〇	三、〇六七	三、八〇〇	一、〇六	三、八	
九月	八、六四一	二二、九五三	二、〇五	一、三三	六、四四四	五、五〇五	一、三九	一、六一	三、二九二	四、三五〇	八、一	六、五	
十二月	九、九七八	二六、五〇三	一、九五	一、一五	六、七三三	六、一三三	一、四六	一、四三	三、七四五	五、一一三	七、九	五、六	
二十八 三月	九、三五	二八、一九	一、六〇	一、一一	六、六九三	六、四七〇	一、五	一、五九	三、六七〇	五、七四〇	六、〇	四、三	
六月	九、五一九	三〇、〇五五	一、二二	一、〇五	六、六二〇	六、四九九	一、三	一、六七	三、九七五	六、七七	五、七	四、四	
その他機械器具及び金物卸売業													
二十六 六月	一〇、七六五	四一、一五三	三、〇	六、五	一三、四七四	一八、九六	六、八四	七、九三	一六、三八九	二二、七六	五、〇六二	七、五	
十二月	一三、七四六	六三、〇七四	二、九八	四、四五	一六、一〇八	二七、三〇五	五、二四	七、二	一三、〇六九	二八、〇三九	四、一三二	六、八	
二十七 六月	一四、四六	八三、一七四	二、七二	六、八五	一六、一二五	三四、九五八	五、三七	九、二	一三、五二八〇	三三、〇四六	三、九五二	六、三七	
九月	一五、五一	九五、七九	二、三〇	五、〇七	一六、六六八	三五、〇六四	四、四九	七、五	一四、〇九九	三六、三六八	三、三八二	五、八七	
十二月	一七、〇〇八	一〇三、八八	二、三九	三、八六	一九、七三四	四二、〇二六	四、六五	五、四三	一六、四一五	四三、六五三	三、四五五	六、六	
二十八 三月	一七、五九	一一八、〇三二	二、三七	二、八三	一八、六八二	四、九三九	四、〇〇	五、一三	一五、六二七五	四四、七三	二、八六一	五、一〇	
六月	一七、八四	一二三、一八二	二、五五	七、〇	一八、六二〇	四、八〇一	四、一三	五、四五	一六、五二二	五〇、九二五	三、三九一	六、七八	

最近における小売店在庫の動向

年 月	内 百 貨 店				一 般 小 売 業			
	内 百	貨	店		一 般	小 売	業	
二十六年六月	五三三	四、九七六	三三	三三	一五、八五六	一七、七四九	五、四〇〇	六八〇
二十七年六月	五三三	五、〇九六	三三	二九	一五、五六六	一七、九三〇	四、一一一	六五九
二十七年九月	一、六七七	七、三三五	二六	三八	一三、六〇三	二四、七一	三、九二六	五九九
二十七年十二月	六二六	八、七三三	三三	四〇	一四、〇三三	二七、六四五	三、三六〇	五四七
二十八年三月	五五一	八、九八八	二四	二五	一六、八六四	三三、六四四	三、四三二	五九一
二十八年六月	六〇二	一〇、九八八	三三	二七	一五、六七三	三三、七三八	二、八三九	四八三
	六〇二	一三、〇二二	四二	一四〇	一六、〇八七	三七、九〇四	三、三五〇	五三八

#### 四、む す び

——在庫増加の経済的意義と限界——

以上において在庫増加の実情とその資金的要因としての金融面の動向を検討したが、それによれば、品種或は店舗差により区々の相違はあるとしても、概して昨年六月より十二月の間は在庫の物量もかなりの増加を示したし、金融面もよくこの趨勢を支えたのに対し、本年初以降はそれらの増勢にも漸く頭打ちの傾向が見られ、加えて今後の増加に対しては諸々の否定的な要因も見られるということであつた。ここで当初の問題に帰つて消費物資の需給を考えると、昨年末まではともかく生産の過剰に対して在庫の増加ということがかなり機能的にクツシヨンの役割を演じたし、生産・消費の不均衡がさしたる程度に至つていなかつたこともあつて、商品循環過程における矛盾の露呈はあまり見られなかつた。しかし更年後、殊に四月以降は需給のアンバランスが既述の通り漸次拡大の傾向を示しており、しかも在庫推移の趨勢が右の如くであることは、今後大きな問題があることを示すものといわざるを得ない。もとより商品の需給は、単に国内消費乃至在庫の動向だけでなく、輸出事情の如何によつても大きく左右される。輸出に關連の深い繊維製品、金属機器、洋品雜貨等については特に然りである。しかしそれ等の輸出について、仮りに今後多少の好転を見込み得るとしても、最近の需給不均衡を調整する程の輸出増加は到底期待し得ないのではなからうか。

小売在庫の保有水準が現在既に高すぎるかどうか、今後更に増加する余地があ

るものかどうかについては、經濟正常時の在庫水準が一つの基準になると思われ  
るが、わが国においては戦前戦後を通じてその種の調査が全然行われておらず、  
従つてそのような比較は不可能である。唯既述のごとく、

(1) 期限経過貨の増加に伴つて流通部門に対する銀行の貸出態度が非常に嚴格に  
なつて來てゐること

(2) 手形サイトの長期化、売掛代金の回収難によつて問屋の代金回収が商品の適  
正回転期間を上廻り、加えて問屋自体の金繰困難もあつて売込先厳選態度が強  
化されつつあること

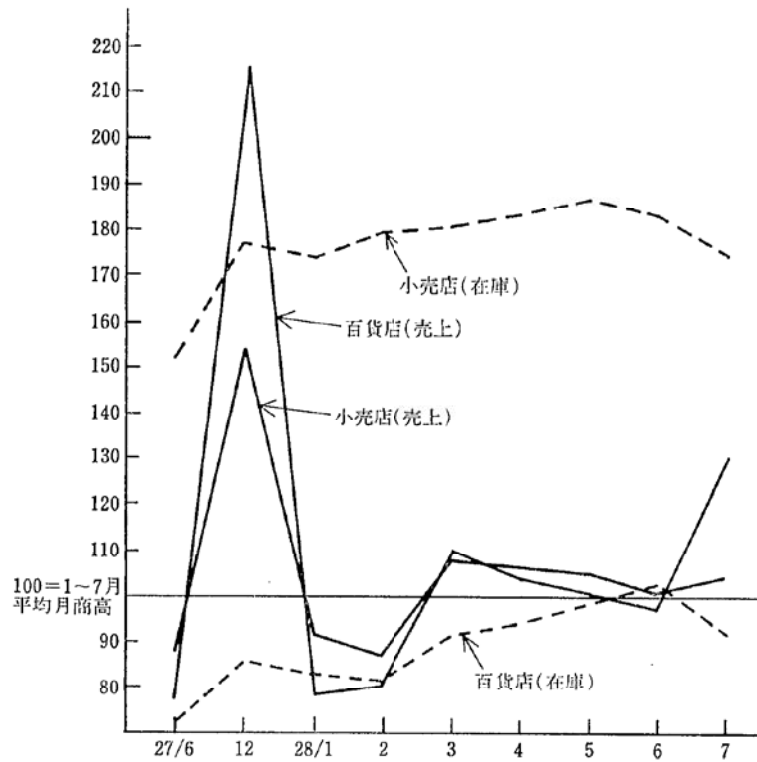
(3) このことは反面小売業者間の優勝劣敗傾向の表面化を意味するが、劣弱者  
には問屋との連繫切離から相当量のデッドストックを抱えながら遂に蹉跌を來  
すものも弗々見られるに至つてゐること

(4) 一般に在庫水準の高度化から商品の回転速度は鈍り、物量的にはかなり商品  
が動いておりながら業況不振を啣つ声が強くなつてゐること  
等の諸事情からすれば、小売店の在庫が殆ど限界点に近くなつてきてゐるとい  
うことは、誤りなく立言し得るであらう。

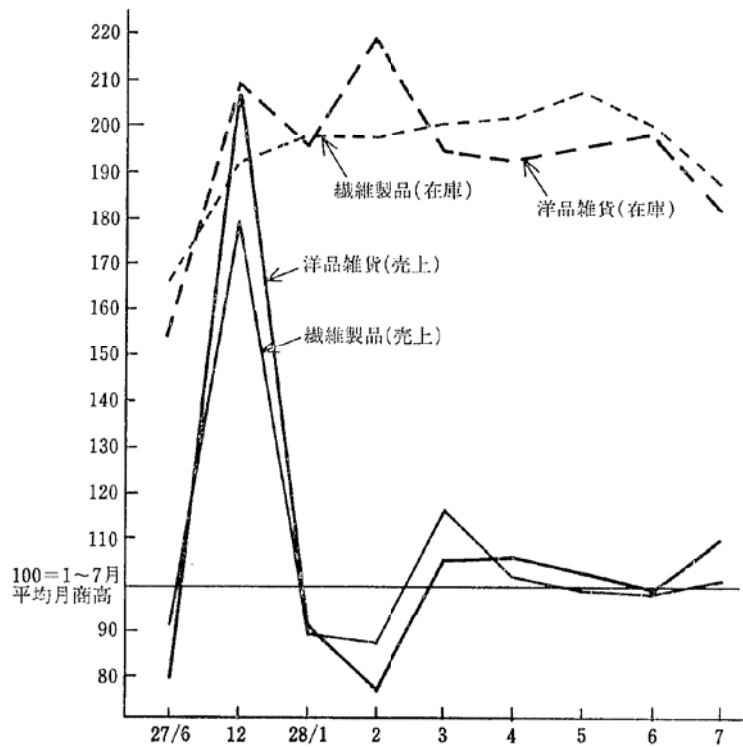
かくてわれわれの結論は、生産と消費のずれを埋める上に、小売店というタン  
クはこれまでに少なからざる役割を果たしてきたが、今後ひきつづいて今までのよ  
うな機能をこれに期待することは、もはや危険であるということに帰着する。

(小 林)

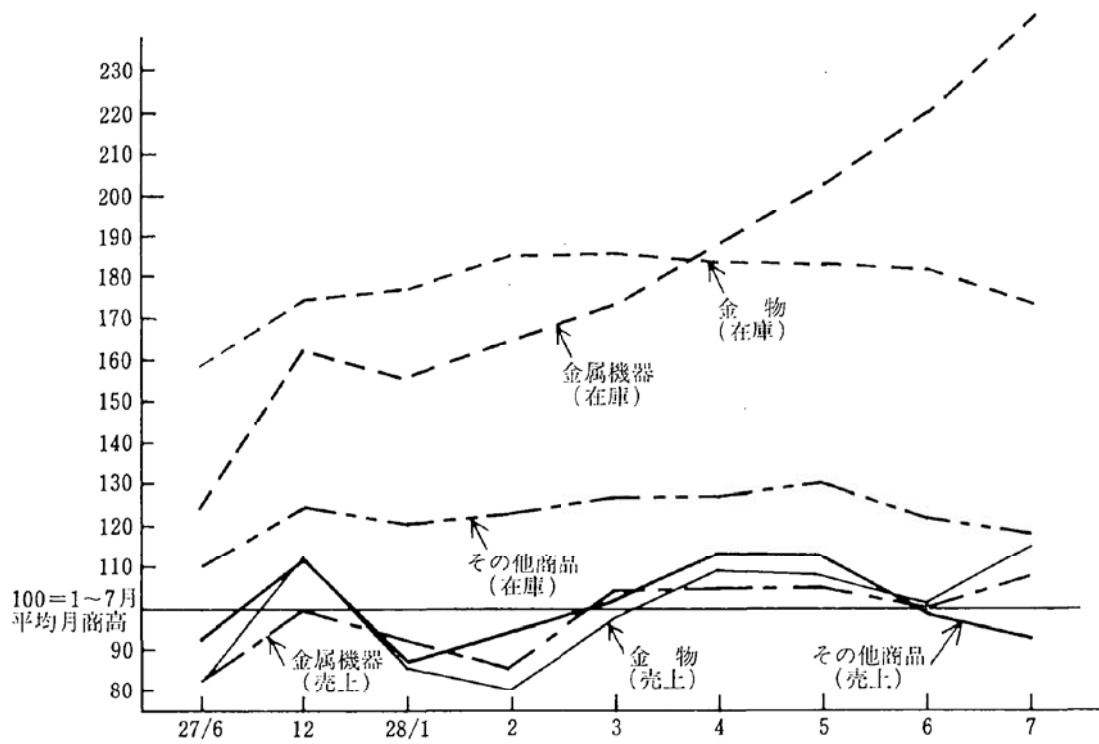
第1図 品種別販売、在庫高の推移  
(Ⅰ 百貨店、小売店)



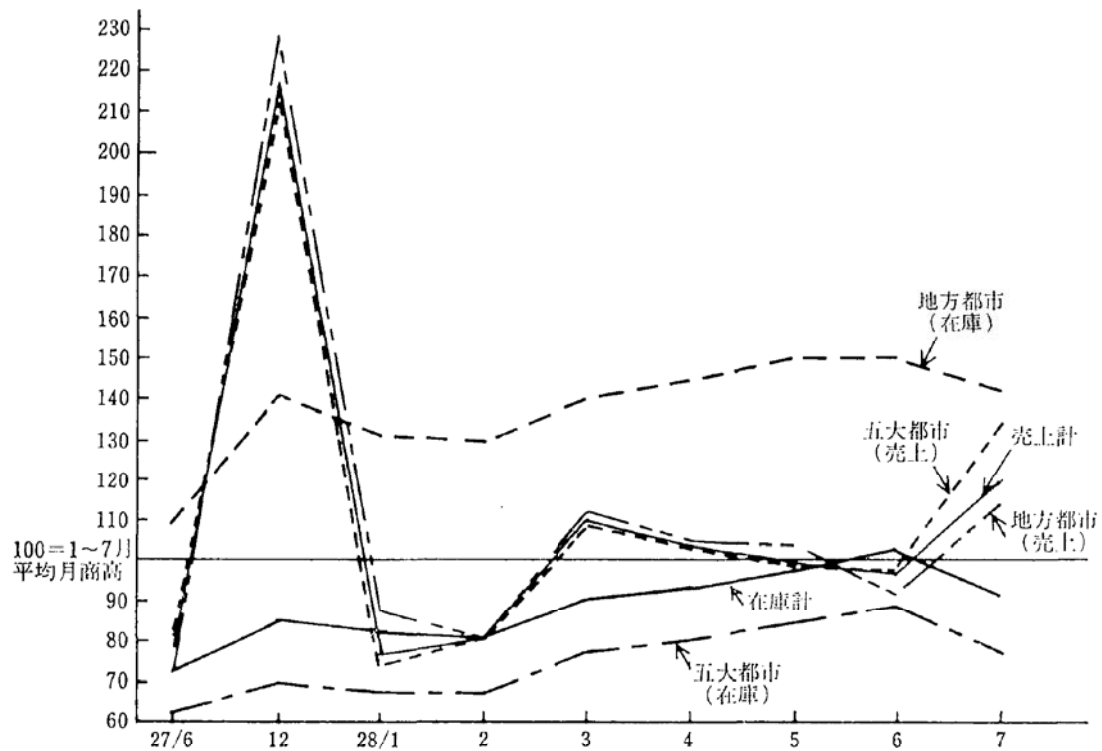
第1図 品種別販売、在庫高の推移  
(Ⅱ 繊維製品並びに洋品雑貨小売店)



第1図 品種別販売、在庫高の推移  
(Ⅲ 金物、金属機器及びその他の小売店)



第2図 百貨店売上、在庫高推移  
(五大都市、地方都市別)





(単位 千円)

[illegible]



(附表(一)の2)

百貨店及び小売店販売・在庫高推移 (二八年一月一七月販売高を一〇〇とする指数)

業種	品規地	種模区	別別別	調査店数	販												店頭	在	庫	高	増加率上 B A (%)	増加率 B' A' (%)
					三月 月(A)	二月	三月	四月	五月	六月(B)	七月	三月 月(A)	二月	三月	四月	五月						
百貨店	地方大都市	計	五方大	三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三			
					三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三				
一般小売商店 (繊維製品)	地方大都市	計	五方大	三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三			
					三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三				
(金物)	地方大都市	計	五方大	三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三			
					三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三				
(金属機器)	地方大都市	計	五方大	三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三			
					三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三				
(その他)	地方大都市	計	五方大	三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三			
					三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三				
一般小売商店計	地方大都市	計	五方大	三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三			
					三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三				

最近における小売店在庫の動向

物価変動を調整した販売・在庫高推移

[illegible]

(附表三)

販売並びに在庫増減率別店舗分布

業種	品規地 種模区 別別別	調査		六月中売上高の対前年同月比較		六月末在庫高の対前年同期比較	
		店数	割合	未 満	満	未 満	満
		割合	未 満	満	未 満	満	満
百貨店	計	五	三	一	一	一	一
		五	三	一	一	一	一
一般小売商店 (繊維製品店)	計	五	三	一	一	一	一
		五	三	一	一	一	一
洋品雑貨店	計	五	三	一	一	一	一
		五	三	一	一	一	一
金物店	計	五	三	一	一	一	一
		五	三	一	一	一	一
(金属機器店)	計	五	三	一	一	一	一
		五	三	一	一	一	一
(家庭用雑貨店)	計	五	三	一	一	一	一
		五	三	一	一	一	一
(その他)	計	五	三	一	一	一	一
		五	三	一	一	一	一
小売商店計	計	五	三	一	一	一	一
		五	三	一	一	一	一

最近における小売店在庫の動向

在庫率別店舗分布（在庫率は一ヶ月平均月商高を一〇〇とする）

業種	品規地	種模区	別別別	店数	調査
百貨店	品規地	種模区	別別別	店数	調査
一般小売商店 (繊維製品店)	五都店	五都店	五都店	五都店	五都店
洋品雜貨店	五都店	五都店	五都店	五都店	五都店
金物店	五都店	五都店	五都店	五都店	五都店
(金屬機器店)	五都店	五都店	五都店	五都店	五都店
(家庭用雜貨店)	五都店	五都店	五都店	五都店	五都店
(その他)	五都店	五都店	五都店	五都店	五都店
小売商店計	五都店	五都店	五都店	五都店	五都店